

午前11時10分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、18番実藤輝夫議員の質問を許可します。18番実藤輝夫議員。

（18番実藤輝夫君登壇）

○18番（実藤輝夫君） 18番実藤輝夫でございます。クールビズの期間ですので、ノーネクタイでの質問をお許しいただきたいと思っております。

昨今の国際・国内情勢、厳しいものがありますが、私が最近、テレビの中で感銘を受けたものがありました。BS放送でしたけども、「山本五十六の真実 遺された手紙」という前編、後編にわたるテレビでございました。山本五十六元帥については、皆様、十分に御承知のとおり、日米決戦に反対しながらも、最終的な日本国天皇の決意の中に殉ずるという形で一命を閉じていかれました。

その中で一番感銘を受けたのは、あの巨大なアメリカの中で教育を受けながら、実情を訴えながらも最終的には大東亜戦争、第二次世界大戦に突入せざるを得なかった。いろいろな思いがあったと思っておりますが、その中で一番感銘を受けたのは、物事に対して1つの決断、実行したときに、成功、失敗は必ず伴うものであります。失敗を後に反省しながら、二度とその繰り返しをしない、それがそのテレビを通じて手紙に残された内容でありました。

私が心から敬愛する山本五十六元帥の生き方には、私は遠く及びませんが、一朝倉市会議員として、朝倉市の将来、そして朝倉市民の安寧を願いながら、以下、質問席にて質問を続行させていただきたいと思っております。

（18番実藤輝夫君降壇）

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 最初に、学校給食の現状と課題と題しております。

これは朝倉市民の学校給食の納入業者からの御相談がありまして、その中でいろいろ現状を私なりに聞いてみますと、将来においても非常に不安な状況が来るんだなというのがわかってまいりました。

最初に、この担当職員の方と話す機会がありまして、そして6月でしたけども、非常なスケジュール、調理師、学校、いろんな栄養士等々のスケジュールがある中で、一生懸命職員の方が前向きに検討していただきまして、3学期からは少しずつでもその納入業者の悩み、心の痛みといいますか、将来的な不安を解消するようなスケジュールをつくっていくというような具体的な方向性を出していただいた。これは秋穂課長からもお聞きしておりますので、その点については、ここで一般質問する必要はないだろうと。

ただ、そこで明らかになったのは、人口減もさることながら、学校給食というものが御承知のとおり、生徒のためにつくられた、これが本来の筋だろうと。しかし、それを学校給食を営むに当たっては、さまざまな人たちの力、あるいは協力というものがあるんだな

と。そして、その人たちはまたいろいろな問題に直面しているというのがわかりました。

これはもう今、言いましたように、当面の問題については具体的に3学期から方向性を出してくれるということですので、教育長に教育委員会を代表して、学校給食の、ここに出しております現状と課題ということで、学校教育の中の学校給食、これは全体、教育全体、教育委員会全体、学校だけではなく、朝倉市全体にかかわる問題だろうと思いますので、そういった視点から御答弁願えたらと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 学校給食というのは、これまで安全、安心、安定、さらには安い価格、安価を基本に、成長発達段階にあります児童生徒に栄養のバランスのとれた給食を提供することが重要であります。そういうことで取り組んでまいりました。

この安全、安心、安価な給食を安定的に行うためには、関係する多くの方々の理解と協力が必要であり、児童生徒への温かい思いやまなざしによって、今日まで行われてきたというふうに思っております。心から感謝しております。

学校給食におきましては、子供たちに栄養の摂取から始まりました、残さず食べよう、正しく食べよう、楽しく食べよう、そして今、感謝して食べようというような形で指導しておりますけども、現在、今、議員がお話しなさいましたように、高齢化の中で子供たちは少なくなっていく、また食の安全性、食に対するアレルギーの問題が出てきたこと、それから気候の変化によります食材の安定供給に数多くの問題が出てきたということ、また、先ほども言いました食に関する衛生管理上、給食調理上の環境改善とか、いろいろな課題が出てまいっております。これらの課題を解決していくためには、関係者の御理解と御支援が必要になってきます。

したがって、さまざまな課題がございますが、これにつきましては十分協議を深めながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 私も今回、その相談を受けながら、改めて学校給食というのがいろんな人たちの支えによって成り立ってるんだなど。その相談された方は、先ほども言いましたように教育委員会の職員、担当の方たちの御努力、みんなの理解を得て、また頑張っていていきたいというようなことを言ってもらいました。本当に私からこの場を借りまして感謝を申し上げたいと思います。

今、言いましたように、学校問題は6月議会で申しましたように、人口減というのが、特に子供の人口減というのも非常に厳しいということで教育委員会からの答弁もいただきました。学校給食がいろんないきさつを経ながら、自校方式からセンター方式に変わった。これも将来的にはそれが存続できるのか。ましてや子供の数が減るだけではなくて、納入業者、その他の生活、営業ができなくなってしまうというような危機的な状況も生まれて

まいります。そういった将来的な展望、課題を踏まえながら、教育委員会としてはぜひとも前向きにやっていただきたいということをお願いしまして、次に移りたいと思います。ありがとうございました。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） それでは、ふるさと納税と市の対応と題しております。これは先ほど8番議員から貴重な一般質問がありまして、現状と市長の考え方も伺いすることができました。

さて、私としてはどのような切り口で2番手としてやろうかと今、思っておるわけですが、先ほどの、市長の政策論争としてやりたいと思いますので、確かにふるさと納税が平成20年からスタートしまして今日に至っておるわけですが、最近、過熱してきたということが出てまいりました。これにはいろいろな理由があるでしょう。

これは1つとしては、来年、職員の皆さん、後からも質問といたしますか、皆さん方にも応対したいと思いますので、よく聞いてってくださいね。2015年4月から、この制度の見直しがなされます。職員の皆さんがやっぱりこのふるさと納税の後の問題、特産品をどうするかという問題については、もしも市長の指令があつて、この体制を整えていくということであれば、みんなの知恵が必要なんだろうと思います。だから制度の趣旨と、先ほどもちょっと絡み合わないところがありましたけども、十分にわかりやすく市民に答えるということは大事だろうと。担当課長以下だけではなくて、いかなるところで地場、皆さんも地域、朝倉市の中に住んである方が大半ですから、そういった方々にも御理解がいただけるように。特に2015年4月から制度改正、上限が2割、手数料が2,000円から1,000円に変わってまいります。これによって先ほど市長もテレビでどうのという話が出ましたが、恐らく、私、これをやると決めまして、1週間、もうほとんど毎日出てますね、きのう、おとといも3カ所出てました。だから過熱するということは一応置きまして、これに市はどういう対応していくかという政策的な課題が出てきてるんだろうというふうな気がいたします。

先ほど市長は、これはもう新聞等でも指摘されておりますから、本来の趣旨と違うんだ、これは私も十分に理解しておりますので、それはそれとして、理解した上での話ということでお聞き願いたいと思いますが、やっぱりこれを機に、地元の特産品、先ほどからもありましたが、いろんなものをお返しという形でやっぺいこう。これは物で人を釣るということではなくて、やっぱりお返しは、例えば香典を出しますと香典返しというのが来る。これはいいか悪いかは別として、あるいはいろんなことをしますとお礼が来ます。という形で人間的な状況もあるんですが、一番大事なのは、地元の特産品をどのようにして全国レベル、あるいは国際レベルまで宣伝、そして販売していくことができるのか。この1つの方法として、先ほど総務部長が話したようなことは、これは朝倉市だけではなくて、日本全国していない市町村はありません。あつたら教えてください。方法は別として、地元

の特産品を何とかして売り出したい。

このとき、これを前提にしながら、このふるさと納税、実質的には応援寄附金という言葉で言うんですけども、この状況を私に具体的に知らせてくれたのは市民であります。私もこの問題については少なからず知っておりましたが、具体的な資料を持って、こういうのがあってますよと。それで私も勉強させていただきました。

しかし、その中で、しかしということじゃなくて、そしたら、やっぱりこれはチャンス
の1つなんだということがわかってまいりました。先ほどの市長、総務部長の答弁では、
否定的なようにとられるようなことになってはいかんということで、あえて市長はそうい
うことではないだろうと、前向きなんでしょうということ、やり方は別ですよ、方法は別
として、そういった形で特産品をやっていくということ、お返しという形でやっていくと
いうことは大事なんじゃないかなというふうに思います。制度の問題出てくれば、また後
でやりますけど、一応、お返しとしての特産品をどう売り込んでいくか、これはこの朝倉
市の特産品を市が買った形で、そしてそれを送るわけですから、二重にいいわけです。

これは私が長々、この話をするというのもどうかと思いますので、市長、先ほどの8番
議員からの2番手として受けながら質問いたしておりますので、そこあたりをよろしくお
願いします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 先ほど柴山議員の質問にお答えをさせていただきました。私の考
え方についてはそのとき述べさせていただきましたし、最後に今後、お礼という形の中で、
何らかの形をつくっていかなきゃならんだろうという御答弁も差し上げております。

それとあわせて、やはり私は毎年、関西朝倉会、御存じだと思いますけれども、毎年行
きます。そのときにもちょっとこの話をさせていただきますけれども、もっと1つのお礼
を差し上げますというのもどうかと思いますけれども、そういった場合でも、大いにやは
り、ひとつよろしく御協力お願いしますということで言っていくと、至るところで、特に
朝倉出身者の方々にはそういう話をさせていただく。

あわせてホームページに、もっと今、ちょこっと載ってますけれども、今、もっときち
っとした形でホームページ等にも載せなきゃならんのかなというふうな気がしております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 市長という立場からすると、制度趣旨と同時に、先ほどからの象
徴的な言葉で、物を人を釣るというようなことはやっぱりやるべきではないというような
基本的な考え方がある。しかし、それは物の考え方ですから、先ほど、皆さん方がいろ
ろしていただいたらお礼を差し上げますというのは、決して悪いことでもないんで、それ
が度を越して、まさにその言葉どおりのものになってしまうと問題が出てくると、それを
過熱にならないようにというメディアの中の指摘があるわけですね。

これはチャンスなんですよ、どう考えてもチャンスです。これはそういった切り口の中

から入っていきますけども、もう制度趣旨については、若干先ほどの答弁では、十分ではない制度理解というのが出てくると思うんですが、それはそれとして、今回、私が非常にビデオを撮って何回も見ておるのは、WBSというテレビ、「ワールドビジネスサテライト」ってありまして、11時からテレビ、7チャンネル、TVQというところでやってます。これをたまたまこれが出ておりましたので録画をいたしておりました。非常にやっぱりさすがの番組だと、過熱、そういうことではなくて、きちんと制度趣旨から、それから特産品のことから、いろんなことを紹介してくれました。10分から15分の話なんですけど。

これを参考にしていくなれば、一応、全く無名といいますか、余り知られてないような町が非常に活気づいてるといふところがあります。それは北海道の上士幌町というんですけど、人口はわずか4,972名なんです。それで広大な北海道ですから694平方キロメートル。これはそのテレビの中で担当職員が言ってるのは、25年度に寄附金が2億4,350万円なんです。これ事務局のほうにまた調べてもらいましたら、26年度、3億1,155万円、これが26年9月1日現在、恐るべき数字です。これは恐らく5億円から6億円に行くだろうと。来年度の上限2割になりますと10億円ぐらい行くんじゃないかと、これは町の規模からすると相当なもんです。

それで、こういうことにも非常に喜んで、それ以上のものを出すということは、これはほとんどあり得ない。普通、私が調べたところでは、やっぱり半分ぐらい返しだというのが一般的です。中にはもらったよりもお金を余計するという分はあるでしょうけど、やっぱりそこはやり方ですから、誠意を持って、していただいた方々に、あるいは寄附金をもらう方々に、どういう形でこの趣旨と、それと地元の特産品をおあげしたいというのがマッチするかという、これは知恵の問題だと思います。一方をとって一方がする、一方とって一方しない、オール・オア・ナッシングの考え方ではだめなんだろうというふうに私は思っております。否定的な意見もちゃんと十分承知しながら、あえてそれを言いたいと思っております。

それから、北海道の安平町というのが、またそこで出てきまして、これ夕張メロンに負けないようにということで、今度の秋からそれをやるということで、また放映されております。

これ聞いてて、どう思いますか。皆さん、どう思います。無料でテレビがどんどん宣伝してくれてるんですよ。これがいい悪いじゃなくて、この間、ずっと皆さん、聞かれてると思いますけど、朝倉市はPR、宣伝が下手だと。何も私は下手だとは思わないけど、そういうふうなことがしょっちゅう言われてるわけですよ。これ見ますと、今回、やっぱり下手なんだろうと思います。市長が出てきたり、町長が出てきたり、もうテレビのインタビューで自分のとこ売り込んでるわけです。これは一過性ではなくて、2015年4月から新しい制度になるとなったら、これでうわっと日本全国のこの種の問題は出てきます。それに乗りおくれたいけない。

はっきり、これはいつでしょう、最近の言葉で「今でしょう」というのだから、もう各地区はいろんなことをやっています。その中の1つの、書いとってくださいね、担当課は、皆さんでもそう。ふるさと納税先進自治体会議というのがその中で紹介されました。これは私が録画したのが8月だったかな、8月の初旬か、盆過ぎかちょっと忘れましたが。ここにそのスタッフたちがみんな集まるんですよ。そしてそこをちょっと放映してるわけです。自分のところのいろんな意見交換をやっておりました。

先ほど質問、具体的に出てましたので、私、知り得た情報を皆さん方に披瀝しながら、これは市長もそうですけど、市長が一番のトップですけども、先ほど言いましたように、副市長、総務部長、全部、やっぱり皆さん方の知恵を、これをやっぱり出していくべきなんだろうと思います。

これ1つ、先ほど言いましたふるさと納税先進自治体会議というのがあって、そこに、また次の放映はソフトバンクが出てきましてね、さっきの安平町に行ったんですよ。それでもその放映がされます。恐らく秋から安平町のメロンは、私のところに来るかどうかわかりませんが、日本全国に知られています、今、その問い合わせがあつてるそうです、もう既に。そういうことが行われてるんだということです。

それと、これ、もう御存じだと思いますけども、全国の住民税というのは12兆円ぐらいあるそうです、財政課長。大体1割と言いますと、約1兆2,000億円ぐらいがその対象になってくるわけですよ。2015年になりますと2割ですから、この倍のお金が動いていくというようなことで、お金が動く、品物が動くという話になってまいります。

これに手間暇がかかるからどうだこうだと言ってるけども、ヤフージャパン、ヤマト運輸、ソフトバンクグループ、それから今度はお金の問題ではトラストバンクというのが出てきまして、そういった民間業者が請け負ってくれる。だからこれ、過熱するという話でもって、これはだめなんだという考え方をとるのか、やはりこういうものを節度を持って、朝倉市の信念と方向性を持ってこれに対応していくということに考えていくのか、これは非常に大きな政策的決断だろうと思います。これは私、やって決して悪くない。ぜひぜひやるべきだ。

これを述べながら、市長、私はそれはもう市長が中心ということが一番いいんですけども、事務的なプロジェクトというのを組んで実際あちこちでやってる、副市長、御存じでしょう、知らなかったら調べてくださいね、どこでもそういう事務的とか、プロジェクト組む場合は副市長、あるいは総務部長が中心になってやりますから、そういった面で、そういう体制をとっていくべきだろうなと思います。

まず、これに対しては議会も、あるいはその農協も含めたいろんな生産をしてる人たちの知恵も要りますんで、どういう形をとるかは別として、こういうプロジェクトみたいなものを、もうあちこちでつくって、今、乗りかかって、もう今からやるのは遅いというぐらいになってる状況の中で、市長、こういう考え方の中に市長部局も含めて、議会も

含めて、いろんな人たちのそういったものをつくるということを私は提案したいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） いずれにいたしましても、ふるさと寄附金制度については、言われましたように、この制度も内容も変わってまいります。そういった中で、朝倉市がこの問題についてどう対応していくかということは、やっぱり真剣に捉えて考えなきゃならん話だろうというふうに思います。

私も最初の柴山議員の質問に答えましたように、そのこと自体、いろんな形でやられること自体を否定してるわけじゃないという形で、基本的な朝倉市としての考え方に基づいて、その考え方の範囲の中でやれることはやっていくというのは当然のことだろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 市長、無投票当選で、非常に今の3年後、4年近くの市政を担当されて、恐らく議会も市長施策についてはほとんどの方が賛成されるだろうと思いますし、英断を振るう時期ではないのか。

今、特産品も含めて人口減、この朝倉市のものをどうしていこうかというのはみんなの悩みで、具体的な、じゃあこれが一番いい、これが一番いいというのはなかなか見出せない。市長部局でもそうでしょう、幾ら庁内で検討会つくったから、はい、やりますというようなことでない。これはもう既にそういうレールが引かれながら、みんなが乗っかっている。ここに先ほど市長の考え方と、この状況の中でどういうものが朝倉市としてでき上がっていくのかというのを、やっぱり政策的に市長だけではなくて全員が、これ議会もそうです、議会はこういうふうに言うばかり執行権がないということで対応できない、そんなことはありませんよ。私たちの今までの経験からしたら、赤字再建団体になるかならんかというとき、執行部と一緒に議会はやってきたわけですから。あるいは甘鉄をどうするかというときにも、議会と一緒にやってきたわけですから、そういった面では、これだけの優秀な議員の皆さんがおられるわけですから、それぞれの分野でいろんな知恵が出てくるだろうと。だからもうプロジェクトという形を組んで執行部だけがやる、庁内検討委員会だけがやるというんじゃなくて、そういった英知を結集するプロジェクトをつくるべきだと思いますけど。

副市長、県のほうもこの問題については非常に前向きに捉えてますが、どのように思いますか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 新聞報道等でもいろいろ書かれております。今度の安倍改造内閣のもとでも、まち・ひと・しごと創生本部、この中で具体的な検討がなされるというふうに伺っております。

先ほど議員おっしゃいましたように、控除の上限が引き上げられるというふうなことも検討されるようでございます。

それからまた加えまして、民間企業がそういった業務を代行するというふうな参入も出てきとるようでございますので、そういった新しく枠組みの中で、どういう手法が一番効果的なのかということをおももとして考えてまいりたいと思います。

それから、県のほうでもそういった動き、私も承知しております。具体的に今、検討されとるということでございますので、情報収集に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 副市長、今、県が一番困つとんですよね、見返りが、お金のないということですね、市はまあまあいいんですよ、県が一番困ってる。そういう中で知恵を出さないかんという、県は思ってますんで、ちょうど副市長は県から出向ですから、いいタイミングだと思いますよ。

これは参考に、先ほども8番議員から出てましたので、私が調べて、行政のほうから知り得たものですが、ふるさと応援寄附金が、25年度は32万円です、32万円。先ほどの4,900の人口がある上士幌町は2億4,350万円、もう何倍ですか。人口からすると10分の1にもなりません。そういったところが、先ほどの繰り返しになりますけど頑張るとと。

それから控除額は、私のほうが調べた限りでは、個人市民税の控除額が33万円です。ということは、控除額のほうが多い、わずか1万円ですけども。しかし、この金額から見ると、朝倉市でふるさと納税寄附金の問題を論議することもどうかなというぐらいの数字です、これは。もうほとんど影響ないような状況です。

現在はこの寄附金は基金のほうに積み立てられてるという話を聞いてます、地域振興基金に積み立ててるという話ですけども、これから先、もうそういった特産品、私の視点は、朝倉市が生み出している生産品、それを特産品と呼ぶかどうかは別として、これを一生懸命、つくってる人たち、そして少しでも収入が得るように、市も、その生産者も含めて取り組んでいくというのが狙いです。先ほど8番議員も全く同じことだろうと思ってお聞きをいたしておりました。

この中で、参考に、これは部課長の皆さん方、お見えになつとるんで、先ほども述べられましたが、このお礼の品でどうして、どういう形を自治体はとってるかというのをちょっと紹介したいと思います。ぜひぜひ皆さん方のお知恵を、私にもお聞かせいただきながら、私も勉強させてもらいたいと思いますので。

里帰りツアーというのが企画されると。この特産品を送ることによって、相手方が、ああ、そうだ、自分のふるさとのところへ送った、こんなものが来た、もう郷愁を醸し出されて、旅行社との提携で、その人たちが、きっかけがそれ、お礼の特産品がきっかけになって、一番最初はふるさと納税です、寄附金ですけども、そういう形での旅行社との提携

で、この朝倉市にあちこちに行かれてる人たちが里帰りをされるだろうと、これ非常に大きい。

それから、これ、おもしろいなと思ったのは、現地だけで使えるサービス券というのがありますね、これ現地だけで使えるサービス券を発行する、観光客を誘致すると。これももちろん里帰りとの関係でもあるんですが、これも1つの知恵だと思います。

皆さん方から、これは市長にああせい、こうせいと言ったって、それはやっぱり支えておる副市長以下、職員の方々の知恵が結集すべきだと思います。

それから、岩手県北上市なんかもおもしろいんですが、特典を送りながら企業誘致の案内書を出してるということですね。もちろん朝倉市も企業誘致はやってるということです。しかしながら、これ、なぜそうなるかという、この北上市から言わせると、都市圏の企業の経営者が非常に多いんだと、大体この前、新聞によりますと、平戸市のも出てましたけども、平戸市ゆかりの人は10%も満たないと、10%未満ぐらいしかいないんだと。それ以外の90%の人があっちゃこっちゃから寄附をしてると、それに対してどう対応していくかということで、特に企業の経営者も非常に多いということで、朝倉市に寄附金を出してくれるということは、関心があるから出すんであって、先ほども33万円ぐらいが年間を通してちゅうのは、ちょっとさみしいなど。

だからここの知恵を、ぜひぜひ副市長、あなたが中心になってやるべきだと思うし、総務部長、片腕として、各部長、そしてその課が、それぞれの知恵が出せるはずですので、これ見て、そらそうですね、いろいろあります、検討しますというのは、私としては、朝倉市としてはいかなものかというふうに思わざるを得ません。これは今からでも決して遅くない、2015年4月から新たな制度、それに向けての準備をしていくべきだと思います。

他市のことを言うと、余りいい気をしないという人もおりますので、しかし、筑紫野市では、もう既にふるさと応援寄附金納付促進事業766万円というのを、もう今回の議会で計上しております。できる限り早急に、これは否定する中身ではないと思いますので、よろしくお願いします。

市長、最後に簡単でいいですから。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） ふるさと納税というのを余計たくさんいただきたいというのは、どこの自治体でも共通の思いだろうと思いますし、またあわせて、その中でいわゆる朝倉市をPRする、あるいは農業、あるいはそういったものに、活性化につなげていくということについては、これは大変、誰が言われるように、誰もがそのことについては賛成されることであると思いますので、市としても、先ほど申し上げましたような形の中で取り組みをさせていただきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） ぜひお願いいたしたいと思います。議会のほう、あるいは議員の

ほうにも一緒ちゅうことであれば、みんなもはせ参じると思いますので、よろしく願い
いたしたいと思います。

次に、西鉄のお話よりも、流れがありますので、人口問題のほうを若干、これはもう時
間がありませんので若干ですが、先般、議員有志で朝倉市人口問題研究会というのをつく
っております。2回も既にやりましたが。その中で、1番鹿毛議員から資料が提出されま
して、全員に配付されました。特にこの人口問題については、山形県の酒田市というのが、
この取り組みをもう既に始めたということです。非常にそういったスタッフが同僚議員の
中にいるということは非常に心強いなど、私はこのこっちのほうは、非常にインターネッ
トのほうは苦手なんで、こういう資料をいただいたことに、まず感謝したいと思います。

これの中身が大事なんですね。酒田市が人口が11万1,151人、これは2010年ですか。こ
れが2040年には7万1,170人、4万減るということで危機感を覚えた。この数字からし
て、朝倉市と余り変わりません、11万何がしが7万。朝倉市の場合は5万6,000が3万
6,000ですから、ベースが違いますからね、2万人減るといのは同じようなことですよ。

この中で、副市長、総務部長、みんな部長もそうですが、聞いてくださいね。これ非常
にいい資料をいただいたんで感謝しておりますが、この市は、丸山という副市長を本部長
として、各部長を本部員とする庁内横断組織の人口減少問題対策本部を設置したとい
うことです。これについて細かいことは別にして、これは組織的なものだけ話します、副市長、
いいですか、一応検討してください。一応じゃなくて、ぜひ検討してください。

これはこの前の6月の議会でも総務部長が言ってましたように、自然減と社会減とい
うのを分けてるんですね、この庁内検討委員会の中で。そして自然減対策部会には、健康福
祉、市民、教育の各部長、それから社会減対策部会というのは、商工観光、建設、農林水
産、教育の各部長が入っていると。しかもすごいことは、もう7月31日に東北公益文科大学
で、出会いから結婚、妊娠、子育てのライフステージにおける具体的な討論、あるいはア
ドバイス会をしたというふうになっております。また11月にやるそうです。

また、この部会は、第1回少子化総合対策懇話会というのをつくりまして、市民とこの
対話をしていくと。市民の悩み、あるいは意見を交換していくという、具体的に対外的に
行動を移しております、対内だけの活動ではなくて、朝倉市はもうまさに同じような状況
になってるわけですから、私はもっと早いだらうと思っておりますけども、こういったことか
ら考えて、きょうは人口問題についてしゃべる、また次がありますので、次の項目があり
ますので、この組織的なものを取り組んでいくのは非常に重要ではないのか。

これは朝倉市は、市長も私の6月議会で、非常に驚きというか、その厳しい状況である
ということ認識しているという答弁をいただきました。まさにそれがほとんどの市民、
そして市長を中心とした市長部局、教育部会の考え方だらうと思います。だからこうい
ったものを、やっぱり副市長を中心として立ち上げてるところがあるわけですから、これ行動
に実際移してますよ、これ。だから行動に移して、副市長もいつまでここにおられるかど

うかわかりませんが、やっぱりこれは朝倉市の喫緊の課題、先ほどふるさと納税もそうですけども、これは本当にこれ一遍失敗したら、もう取り戻せないという問題ですよ。だからこれは早急に立ち上げていくべきであると。

あくまでも市長部局、市長が中心になって、あるいは副市長でもいいですが、行政がやらないと、議会のほうで幾ら研究会したって限界があるわけですよ、情報収集から行動に関しても。だから市長のほうから、副市長を中心としてでもいいし、そういう体制ができてやっていただけると、議会のほうも一緒に、まさにこれが両輪のごとくという話なんですよ。こういう問題に関しては、どっちが一方、こうこうという話じゃないと思います。両方が一緒になって、将来の朝倉市のためにやっていかないと。

これ、市長、どういうふうに、簡単でいいです、この問題はこれで終わりますから。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、おっしゃいますように、6月議会のときにも申し上げましたように、人口減問題というのは非常に将来の、これは朝倉市のみならず、我が国にとっての深刻な問題、大変な問題です。そこで国のほうにおきましては、ようやくと言っていいんだらうと思いますけども、本格的に人口減問題に取り組むということで、これは創生会議も地方創生省という部署の中で、地方の活性化と人口問題に取り組むちゅうことでありますから、私どもとしまして、朝倉市がこの人口減問題、これは私どもがするのは、この朝倉市の人口減問題についてどうするかということについては、いろんな部署がかかわりがあります。ですから言われるように、私自身としては、もう既にこの問題については、例えばいろんな形の中で話をしていますんで、それを今後、どういう形で庁内の、そういう会議の対策会議みたいなものにつくりかえるかというのは、今後の問題として真剣に考えていかなきゃならん話だらうというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） まさにそのとおりだと、今、市長の答弁のとおりだと思いますね。厳しき、どんどん増していきますし、取り返しがつかない状況が必ず起こると。

副市長、あなたがおる間でも、これを先鞭切って対策委員会、あなたのほうから私が中心になってやりますというぐらいの意気込みで、これを残していただきたい。その後はどんどん続いていきますよ、これはもう1年、2年でしまえる問題じゃありませんから。ずっと毎回毎回検討していかないと、しかも市民挙げてやらないかんというのが、この前から私が言ってる、職員はもちろんのことですよ、議員もそうですよ、この問題は一遍、もう人口が減したときに朝倉市が浮揚するということもなかなかできません。その当時は私ももう恐らく死んでると思いますけどもね、25年先ですよ、もう20年後ぐらいに起こってきますよ、今のペースでいくと、ということです、ここの危機感をお互い持ちながらやっていきたいと思えます。

時間が限られておりますが、きょうの主題の1つであります西鉄バス停、甘木バス停の

とこですね、この問題、ずっと去年から論議をしてまいりました。私も西鉄の動きがあるということを知っていましたら、先日、いきなりこういうふうなものが商工会議所に渡され、市のほうにも渡されたと思うんですが、よかったですか、これが商工会議所のほうに渡され、そして市のほうにも渡されてるわけですね。

これ、びっくりしたのは、お聞きしたら、もう9月8日、この時点より誘導員を配置しますとなってるわけですね。今までの質問と答弁からすると、市長は鋭意努力されているということを知っていますし、私どももコミュニティ協議会会長初め、役員、その他はそれを信じながら今日まで来ました。

それについて、きょうここで何やったんだとか、どうだとかいうことじゃなくて、こういうものが出てきたという以上は、しかももう9月に着工して、9月に終わらせるなんていう話があり得るのかというふうにびっくりしてるわけですよ。これは甘木町の町民だけではなく、市長の答弁だと、これは全体のバスセンターだというふうには、後でももちろん出なかったら、市長答弁、ちゃんと持ってきてますから、これに基づいて質問したいと思うんですけども、こういうものが出て、市長はどう感じて、今後どう動いていこうとしてるのかというのを、まずお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今回のバス停の整備といいますか、余りにもあそこが甘木バス停として、汚いという言い方が適切かどうかは別として、そういう状況であるということで、これは商工会議所が中心となられて、西鉄のほうに要望されております。これについて正式に市のほうには、商工会議所のほうからは、正式な形で、今、いろんな形でこういう形でされるという話は聞いてますけれども、正式な形で、後になって最終的に、今、実藤委員が、今、提示されました、そういう図面も、図面といいますかイメージ図を含めて、私どもも理解をしておるわけでありすが。

言われましたように、これとこの動き、このお話と市が西鉄にお願いした話は根本的に違う話です。違う話というのはどういうことかと申しますと、朝倉市としましては、あくまでもあそこにある市がやっける公共交通の乗り入れというような形に出発、乗り入れをさせてほしいという形の中で、もちろんそれにあわせて整備については、それは西鉄がするのか、こちらがするのか別として整備しようという形で、最初、当初、話を西鉄のほうに持っていったわけですけど、なかなか西鉄も腰が重いというようなことで、その後ずっと今、西鉄のほうに、その恐らくこれ以上、言う、また次の質問の後で答弁しますけれども、今日に来た。

ですから、基本的に申し上げますなら、商工会議所がされることは、僕はそのこと否定しない、いいことだと思います、きれいになるんですから。しかし、あれはあくまでも所有者である、あそこの土地の所有者である西鉄が、という会社がきれいにするというものであって、私どもは西鉄にお願いしとるとは、そのこととは基本的に根本的に違う話をお

願いしとるということで御理解いただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） これは周辺整備の一環だと思いますね、これができるというのは、今の建物の停留所の建物じゃなく、トイレを撤去する、フェンスをつくるという話ですので、恐らく西鉄のほうが何とかあそこは自分の責任ですという話なんでしょう。

今、誤解を招くのが、その乗り入れの問題と、その周辺整備の話なんですけどね、これ、去年の6月の、市長、これ議事録ですから、市長の答弁のとこだけをとりながら、前後ろがあったら言ってください。これ6月の、これで言うと65ページなんですけど、西鉄はあの停留所は通過駅だという捉え方をしています。しかし、これ市長の答弁ですよ、朝倉市にとっては、ほかのデマンドも含めて、甘観も含めて、あそこで乗りかえができると非常に住民が便利になるんで、あそこは市としてはセンターという考え方で話をしていますと。それじゃいかんので、しかし、平行線ではいかんので、何らかの覚悟をしなきゃならんと市としてもそのことについてお話をしたとおりでありますと。

その次、私もそのことについての覚悟は持っておりますということで、周辺整備をやっぱりするというのを、この市長答弁にあるわけですね。

私はこれに西鉄がすると言うんだったら、市の対応は、全く乗り入れの問題は一応置いて、全くイコールではないんで、間接的には一緒ですけども、これをどういうふうにしていくか、こんな凶面のイメージ図では、町民は、少なくとも私は納得できない。恐らく朝倉市民、甘木に住んでる人、あるいはあそこを利用してる人、いろんな人が見ても、こんなのかよと、まさに高速道路の、ここに上がっていったところにあります、吹き抜きの、透明の、あれと全く同じですから、これ。あれがバスセンターと言えるのか。最低でも杷木の停留所ぐらいのものは、やっぱりきちっとしたものができなきゃならんのだろうというふうに思います。

私はそれが私どもらが望んだら、昔のにぎわいのある、あんなすごい西鉄がスーパーまで運営しながら、ああいうものが今さらできるとは全く思っておりません、そんなことはないものねだりですから。しかし現実的にでき得る周辺整備、特に象徴たる朝倉市の顔とも市長も言ってもらいましたが、そういった立場に位置づけがされておる旧バス停については、バスセンターについては、やはり今、こういうのが出てきた以上は、市長として応分の話し合いを早急にされるべきではないか。これができたら、もうこれは1つの既成事実になりますので、1年、2年、5年、10年という、これが老朽化しない限りは簡単には撤回しない、これはなくならないだろうと思いますよ。これは本当に私から見ると、こういう表現はいいかどうかはわかりませんが、率直な言葉を使うならば情けないと、これが西鉄の甘木バス停なのかという、思わざるを得ません。

だから市長、これ、私は今までのいきさつ、西鉄のあり方、それから商工会議所、それは一応置いて、市長、これ一緒にね、ベンチャーでもいいから、西鉄がこういうふう

にやるんだったら、朝倉市もこれと一緒に、この共同、これベンチャーになりますからね、これだけの投資はすると言ってるわけですから、向こうは。それに対して市長としても、これ共同でやる、これは民間がやるなら、市長はやる、後でこれまた出てきますよ、これの中にそういうふうに言われてるわけです、市だけがするんじゃないと。民間企業としてやるんだったら共同して協力しながらやっていきたいと思いますという、市長の私の6月の答弁があるわけです、これ12月の答弁もそのようになっております。ちょっと時間の関係で全部読むわけにはいかんかもしれませんが、市長、その点について、一緒にやっていきたいと思いますという考え方でどうですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 申しあげましたように、当初、西鉄にお願いを行った当時は、ときには、いわゆる乗り入れをさせてください、そのかわり、例えばあそこの整備等については、市のほうがという話までしましたけども、西鉄はその話には乗ってこない。

それで実は、最終的ちゅうか、あれだったのは、ことしの2月に、具体的な朝倉市としての条件と申しますか、を西鉄のほうに提示をしております。これは前提は、ただあそこがきれいになるだけがいいという話ではなくて、先ほど言われましたけども、何遍も答弁してはいますが、いわゆる西鉄も含めて、朝倉市内のデマンド、甘観を含めた公共の交通機関、あそこに乗り入れをできる、そのことが、そのことをすることによって、私どもはあわせてあその場所を整備していこうという考え方で今日まで来ております。

今回、実藤議員に言わせると、あんなもんじゃ不満だということであるようですが、あれは、恐らくあくまでも西鉄だけが使うようにされると、汚いからきれいにするということ、現時点ですよ、だろうと思います。西鉄さん側が私どもの要望を聞いていただける、条件をのんでいただけるということになれば、当然、今、言われますように、行政、私どもを含めて、西鉄がどの程度協力するかは別として、私ども、極端に言うなら単独でも整備をきちっとしたものにしていきたいというのが私の気持ちであります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 今のがポイントですよ。私たちは乗り入れを決して否定しておりませんし、乗り入れはぜひしてほしい。しかし、私が12月、6月は両方入ってますけど、12月のときのところで、まさに市長が今、言われたようなことを自分は考えとるんだということです。これ読んでみます、54ページ、西鉄とどういう話をという話からですけども、残った土地の話が出まして、そういったことも含めて、市としてはお互いに協力してやりましょうや。私も協力、うちも協力、市のことでしょう、協力しますと。ある一定のものを提示させてもろてます。相当な思い切った提案をさせていただいております。現在のところは西鉄がそれに対してどう返事が返ってくるのかということをごちらとしては待っているということで答弁がっております。

これは乗り入れの問題ではありません。これはあくまでも、私はポイント絞って、あそ

こ周辺整備の停留所を含めたところをどうするかという話をしております。だから乗り入れは乗り入れで話をされたんだらうけど、こっちの問題が今、当面出てきてるんで、これについて、過去のいきさつはどうかこうかは別として、何らかの形で、これよりももっといいものを市長と西鉄が話し合えば、西鉄はこの金を出すと云ってるわけですから、これをもっと将来的に乗り入れでも対応できるような、乗り入れの話をしてるんだったら、これではもう足りませんよ。そうすると、それが両方できるような、もう今やらないと、これ9月の日程が出てきてるわけですから、9月8日の日に、もういろんな人を入れ込んでいくという話になってますので、来週の月曜日ですよ。

だから私もびっくりしておりますし、市長のその決意をいいますかね、西鉄との話し合いでちょっと待ってくれと、私たちのほうも、この前から話してるものをぜひ実現してほしいというふうなことで言っていたかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 繰り返しになりますけども、例えばあそこの整備についても、これは前提として乗り入れという前提がある中での話ですので、そのことについて、それとこれが全然切り離してという話ではございませんので、その点は御理解をいただきたいというふうに思います。

そしてその上で、今回の商工会議所を中心として市民の皆さん方が西鉄に要望された内容というのは、あそこが余りにも汚いんで何とかしてくださいという要望、それに西鉄が応えたということであろうと思います。このことが私、市が、市が西鉄と話す中で障害になるということであれば、それはいろいろありますけど、私としては、これはあくまでも西鉄内部の判断でされたことであって、あわせておまけに、今、言われましたけど、西鉄が何らかの形であそこの計画を、開発の計画をしてるんじゃないかという話が先ほどありましたけれども、少なくとも私どもはそういう話を聞いておりませんし、何か開発の計画をするならば、市のほうにも相談があつてしかるべきだし、私どもが提案したときも、実はという話があつてしかるべきです。

ですから、あくまでも私どもとしては、今回のバス停の整備、整備ちゅうか、きれいにするということについては、商工会議所を中心にした市民の皆さん方の要望に応じて、見ばえがよくきれいにしましょうということであろうかと思ひます。その以外に西鉄側が、あそこをじゃあきれいにしてどうするちゅう話じゃないだらうと思ひます。

ですから、私どもはあくまでもあそこに乗り入れということをお前提とした中でお願いをします。そして、今、申し上げましたように、それが西鉄のほうで了解、お互いに話ができれば、市としても当然これは、朝倉市民みんなが便利になる話でありますので、当然、市としても市の予算を、最低でもそこを整備するという覚悟でありますので、そういう理解をお願い申し上げたいというふうに思ひます。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） そうすると、その乗り入れというものを前提にして、西鉄がこれをつくってくるということについては、西鉄内部の問題であるから、従来から甘木町コミュニティ協議会を通じて、私どもも含めて周辺整備ということも含めて、停留所をきちっとしたもの、バスセンターという機能性を持ったものをつくってほしいというような要望をしてきました。それは事後に回るということになりますよね、このまましてしまうと。

私はもう絶対に、私、商売人ですからね、の息子ですから、生まれながらにして。それをこういうものができ上がって、来年、再来年に、じゃあそういう市長が提案したものが西鉄がやりますと言うのか、恐らく私は4年間、市長はこれからやられるわけですけども、これができ上がって、西鉄が、はい、そうですかと乗ってくることはまずないと思いますね。これは商売の、私が知っておるイロハだと思います。

それを見越した上でこれをつくるんだったら、私が今、提案してるのは、西鉄は無理やり、こんな市長の、朝倉市長の意向を無視してですよ、連絡が来てないという話ですから、これをつくって、既成事実をつくるというのが本音なのか、それとも、やっぱり今、市長が答弁される、西鉄の気持ちを考えて答弁されたのか、これが聞きたくて、私はこの一般質問してるわけですが、一番大事なのは、私どもが朝倉市の顔として、あるいはこのバスセンター、バス停留所として見られてるけど、バスセンターとしての機能性を持った、それなりの建物と、トイレも含めてですよ、トイレ、今度は撤去されますからね、トイレはないんですよ、この不便性を抱えたこんな停留所がつくられることに、私どもはこれから数年の間、あるいはこれからずっと耐えていかなきゃならんのか、これを毎回見ながら生きていかないかんのか、不便さを感じながら生活していかなければならんのかというのが、私はきょう、ぜひ市長、まだ時間ありますから、9月、来週でも、きょう終わってでもですよ、西鉄のほうに、もう1回、こういう話が来とるけど、話のテーブルに乗ってくれんかと、私の意向を聞いてもらえんか。

そして私はこれを提示したというのは、向こうはゼロ円ではなくて、市と合弁で、ベンチャーでできるということを出してきて、それに対して市が、それなりのものをするというのは、まさにここで出されておる、市長が答弁されたようなものになるわけですよ。だから市長はやると、この問題については、民間企業がやってくるんだったら、協力して一緒にやりましょうというふうに答弁されてるわけですから、これに基づく、もう本当に来週の月曜日から動き出そうとしてますから、ぜひ市長、この点についての御回答をお願いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 前提がちょっと抜けた上でのお話をされてるようになってます。民間と一緒に、私、一緒にやりましょうというのは、あくまでも乗り入れを前提です、そういう話のはず、皆さん、そういう理解されてるはずですよ。あくまでも私が申し上げてるのは、要するに西鉄のみならず、いわゆるデマンドバス、それから甘観も含めてあそこの

場所に乗り入れて、そうすれば、これは朝倉市民みんなが便利になる話です。それを前提にした形の中で西鉄と一緒にやりましょうという話ですから、それはちょっと誤解があるようであります。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 6月ですね、この答弁書、見てくださいよ。私は、今、類推して言ってるんじゃないし、市長の答弁だけを読んでるんですよ。

12月のほうは、乗り入れの話はほとんどもうありません。全部、この答弁書、私の質問は周辺整備の話をして、市長はこれに先ほど述べましたように提案をしておると。いいですか、残った土地の活用についても、そういったことを含めて、市としてはお互い協力してやりましょうや、西鉄のほうに市長はそう言ったと答弁してあるわけです、54ページに。私も、うちもというのは市、協力します。ある一定のものを提示させてもらってますと、相当な思い切った提案をさせていただいております。現在のところは西鉄がそれに対してどう返事が返ってくるのかということをごちらとしては待っておると。

だから当然、これがもちろん向こうの話ではないとして、これはあくまでも乗り入れとするならば、やっぱり周辺整備のバス停をどのようにしていくかという問題は、トイレも含めて、あの周辺が本当に朝倉市としての重要な位置づけだということは、市長は前々から言われておるわけですから、それに対して対応、乗り入れ、乗り入れという話になってくると、私からするとですよ、ほかの人はわかりませんが、すりかえになってしまっています。乗り入れも重要な問題ですよ、でも今度の問題はそれではなくて、バス停の問題が出てきてるわけですから、これにどう対応していくかということをもう1回、言ってください。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私、6月の議事録持ってなかったんです。何とも言えないなと思ってましたら、副市長がここにいますんで。

その中で、乗り入れという話は出してますよ。

○18番（実藤輝夫君） 出してますよ。

○市長（森田俊介君） 出してますよ。その一連の流れの中で言えば、その以前からの流れの中で言えば、当然、前提には、私の言葉が不足だったということであればお断り申し上げますけども、流れの中で言えば、当然、乗り入れというものが前提にあるということは御理解いただける話だろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員。

○18番（実藤輝夫君） 市長は乗り入れの問題が1番目だけでも、しかし、こういう要望書ができて、バスセンターとしては生きてますと答弁してて、そしてこれについての開発も、西鉄と今、話を当然してると、重要な判断も出してます、乗り入れを否定してるわけでも何でも無い、乗り入れは重要な課題です、私たちも必要だと思ってます。

ただ、それと同時にトイレも含めたバスセンターの機能として、誰が見てもあそこを重要にして、便利を持ったバス停としてつくってくださいというのが私どもの願いですから、そちらのほうで12月の議会では、そっちのほうを特化して私は質問をいたしておりますので、その点は、こんな論議じゃなくて。

市長、私はね、私は要望してるのは、今、こういうのができ上がろうとしてるので、市長が西鉄のほうに早急に電話して、そして話し合いを持つようなことはできませんかと言ってるんですよ、協働してやりましょうという話。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） この問題が出まして、私は直接会ってませんけども、担当課がきちっとその問題について話をしています。ですから、市の考え方というのは西鉄のほうは十分理解をしておると思います。その上で、西鉄が今後、どういう形で対応されるかちゅうのは、私、わかりませんが、実は今度6月、法律が改正になりました、ある法律が、交通に関する法律が。その中で、いわゆる朝倉市が地域の交通体系の、正確に言うと、いわゆる1つの計画を立てる、そうなりますと、交通事業者もそれに入れていただくようになります。だからそういったもの、いろんな形を使いながら、何とか。

○議長（手嶋源五君） 市長、時間になりました。

○市長（森田俊介君） 西鉄にも御理解いただくように努力をしたいというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 18番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

午後1時10分まで休憩いたします。

午後0時10分休憩